

4 教育に関する学識経験者の意見

認定こども園つつじが丘幼稚園 園長 杉本 伸子

(帯広市立明星小学校 元校長)

帯広市教育基本計画（令和2年度～令和11年度）の5年目である令和6年度の取り組みについては、世界及び国内の情勢が混沌とした時代にありながらも、帯広の子どもの育つ姿を見据えた施策が着実に推進されています。点検・評価は、適切・的確であると判断致します。

基本施策1 帯広の明日を拓く力の育成「1 ふるさと教育の推進」では、郷土への愛着や誇りを育むための「おびひろ市民学」の充実が図られています。また、「2 職業観の育成」では、地元企業と連携した授業やおびひろスクールコラボを推進し、子どもたちに将来についての展望が持てる教育を進めている点が数値の向上に繋がっていると考えます。

少子化により働き手の供給が制約される時代がきています。子どもたち自身が働き手となる時代は、より一層大きな変化が訪れることが予想されます。そんな時代を生き抜く子どもたちの心のよりどころとして、ふるさとへの愛着や大切に思う心の育成が必要です。今後もより一層、地域社会の一員として地域を愛する心を育てる教育が2つの施策の連携の中で継続されることを期待します。

基本施策2 変化する社会に挑戦し、たくましく生きる力の育成「9 教員の資質・能力の向上」では、学力向上推進プロジェクトチームによる授業改善やおびGIGA支援員によるGIGAスクールが推進されています。また、同時に教職員の働き方改革推進プラン（第3期）に基づき、校務の効率化や学校行事の見直しを帯広市として進めている点を高く評価します。

子どもを育む最前線にいる教職員の職能を高めることと、常にアップデートしていくことは大変重要です。しかし、そのことが、教職員一人ひとりの働き方に過重な負担となるようでは、より良い教育を推進し続けることができません。帯広市全体として、その両面を考えた施策を推進されている点が評価できると考えます。今後も細やかな配慮のある施策の推進を期待します。

基本施策4 安全・安心な教育環境の整備「13 誰もが安心して学べる教育の推進」では、多様化する児童生徒の特性や、家庭の状況に対応すべく、様々な取り組みが行われています。年々、教育相談のニーズが高まっている中で、その体制の充実に向けては課題が多いことと思います。しかし、市内校に通級指導教室が開設されるなど、多様な特別支援の状況に対応して進んでいる点が評価できると考えます。基本施策3の「11 家庭教育への支援」には、基本的な生活習慣確立に向けた記録シートの配布が記されていました。家庭と学校との連携の中で家庭を支える取り組みを今後も展開していくことを期待しています。

近年、北海道も温暖化の影響を受け、夏場の猛暑や記録的な大雪など、極端な気象現象が顕著になってきました。エアコンの設置や施設改修等、ハード面の整備が求められる中、帯広市は計画的に着手し、教育環境を整備しています。教育基本計画の折り返しとなった令和6年度は、個々の施策が、帯広市の子どもたちを育む大切な柱として計画的に執行され、適切に評価されています。市民一体となった教育の更なる発展を期待いたします。

帯広市教育基本計画(令和2年度～令和11年度)の5年目にあたる令和6年度の取り組みについては、コロナウイルス感染症の5類移行を受け、感染症対策に配慮しつつも、より数多くの活動、対応が行われて、多くの項目で目標値に向けて進捗しており、適切であると判断いたします。

「帯広の明日を拓く力の育成」では、地域の中の全員が地域社会に参画する意識を高めるため、今後も、各種団体、町内会等との連携を強化し、リーダー養成事業の充実を図るとともに、地域の親子参加防災講座を通じて、地域でのボランティア活動、防災活動、地域の中での自分の役割などを含め参画意識の向上を図っていくことを期待します。

「変化する社会に挑戦し、たくましく生きる力の育成」では、豊かな情操を培うため、一人一台端末や「ぶっくーる便」の活用を継続し、読書に親しむ取り組みの更なる充実を進めていくことが大切と考えます。また、メタバース空間「ひろびろチョイス」などの活用を進め、オンライン等を活用した学びの補完に継続して取り組んでいくことを期待します。さらに、朝食を毎日取ることを習慣化するように働きかけるなどの基本的な生活習慣の確立に向けた意識の醸成にあたっては、地域人材を巻き込んでの活動等が一層増えることを期待します。

「地域とともに育む教育の推進」では、コミュニティ・スクールを中心として地域と学校が一体となった見守り活動、子どもの居場所づくり事業の一層の充実が必要と考えます。ボランティア登録者の拡充を図るため、実施内容、時間帯などの工夫をはじめ、PR活動を積極的に進めていただき、各校PTAや帯広市PTA連合会等ときめ細かな情報共有を図ることで関係団体との緊密な関係づくりに継続して取り組まれることを期待します。

「安全・安心な教育環境の整備」では、複雑化、多様化する児童生徒の抱える課題に対して、家庭・地域・学校が一体となり、状況に応じ、柔軟に対応する姿勢が重要であることから、今後も、連携強化に取り組み、必要な支援が行き届くような配慮に努めていただくことに期待します。また、不登校児童生徒への適切な対応のため、スクールカウンセラーの活用や、別教室登校などのほか、一人一台端末を活用し、学びの機会を失わせないように対応を家庭・学校・地域と協力して進める必要があると考えます。さらに、小学校入学、中学校入学時のギャップを無くすため、幼保と小学校との連携、小学校と中学校との交流を図るなど、つながりのある学びの機会の構築が一層進んでいくことに期待します。

「自ら学びともに支える生涯学習の推進」では、市内の社会教育施設等の有効活用をさらに進めるため、時代に即した学習内容の検討をはじめ、全年代を通じての学習機会の提供に一層取り組んで頂きたいと考えます。例えば、図書館では、朗読ボランティアなど図書館ボランティアとのイベントの充実を進めていただくほか、動物園、百年記念館においても、ボランティア人員の確保が図られ、活動の充実につながることに期待します。また、各施設の老朽化に対しては、修繕・更新など、適切な時期に適切な対応がなされ、長期的な使用の中でも利用者の利便性や満足度が持続されるよう取り組みを進められることを期待します。

帯広市教育基本計画(令和2年度～11年度)の折り返しとなった令和6年度ですが、個々の施策については、目標の達成に向け着実に取り組みを進められているものと評価いたします。施策目標の達成に至っていない項目については、家庭・地域・行政が、ともに知恵を出し合い目標に少しでも近づけるよう、引き続き努力し続けることを期待します。